



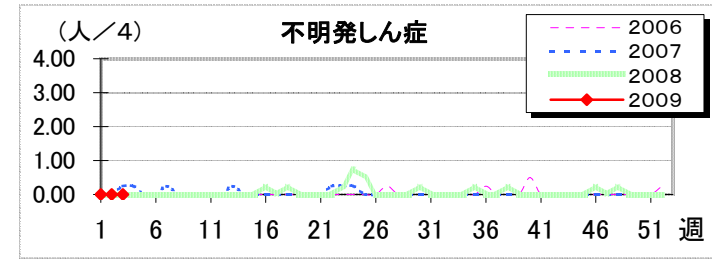
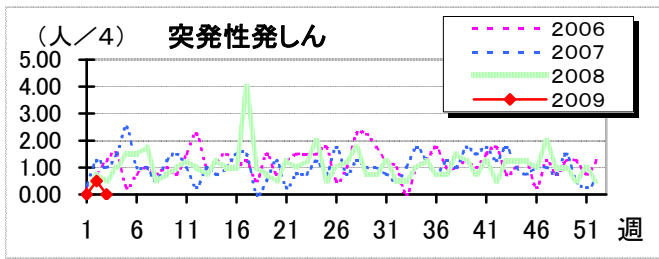
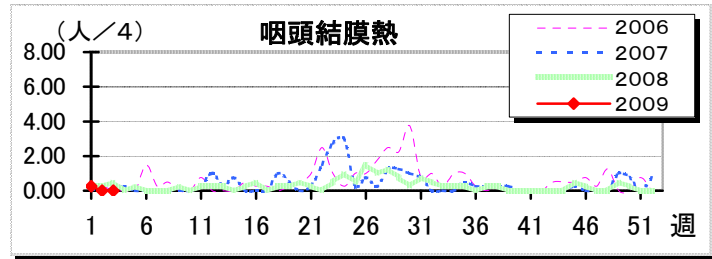
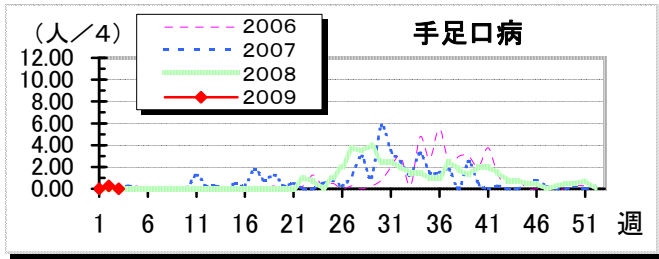
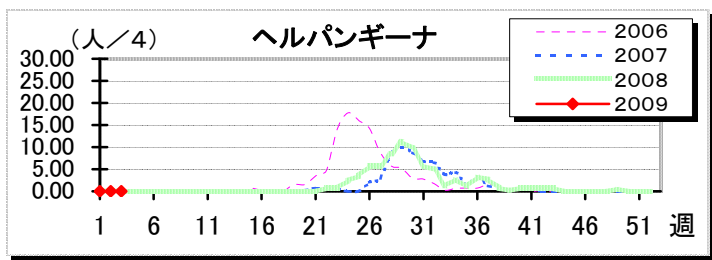
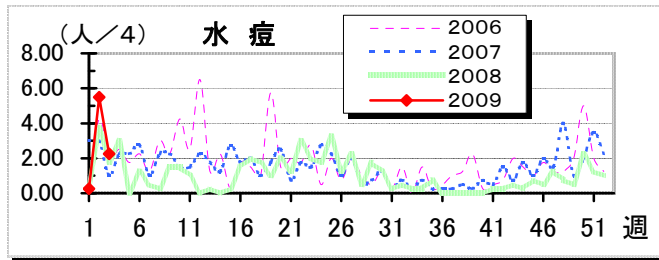
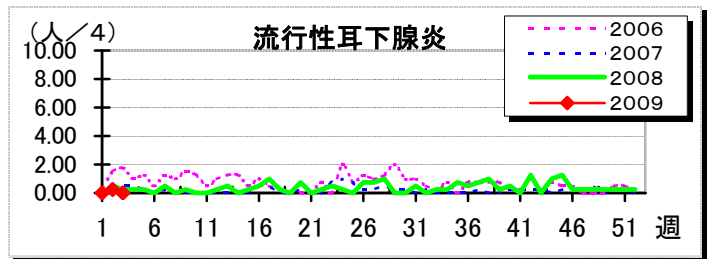
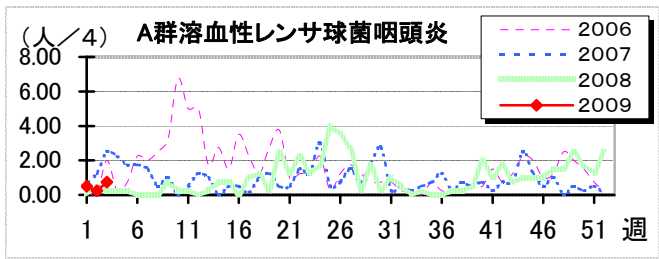
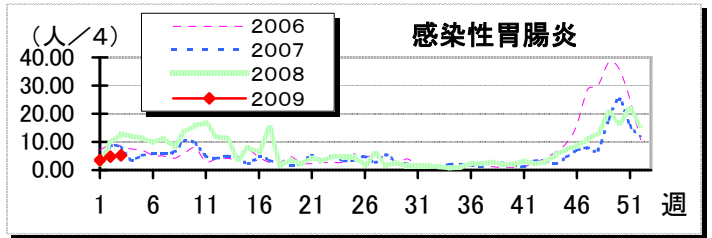
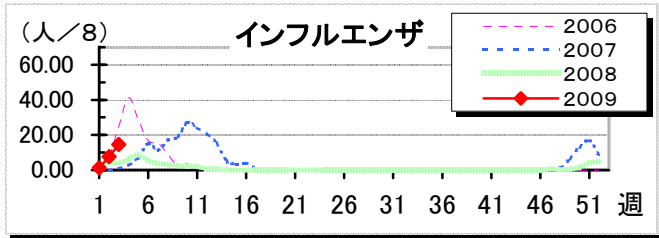
Infectious Diseases Weekly Report City of Kita

感染症発生動向調査／北区感染症週報

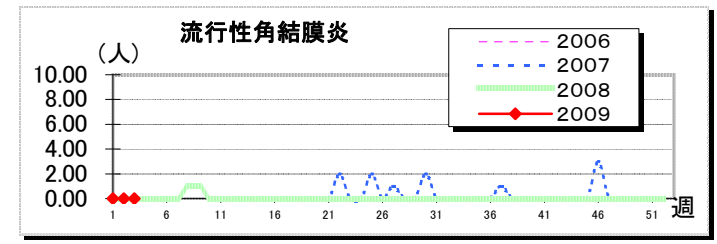
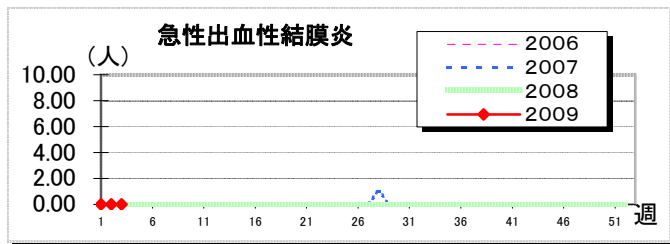
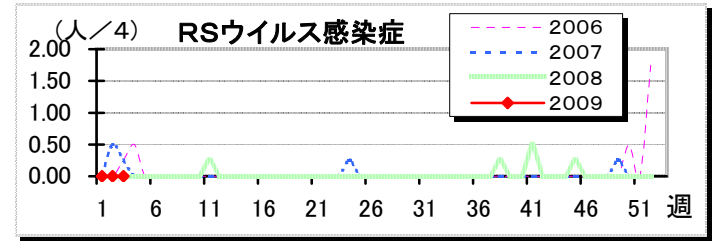
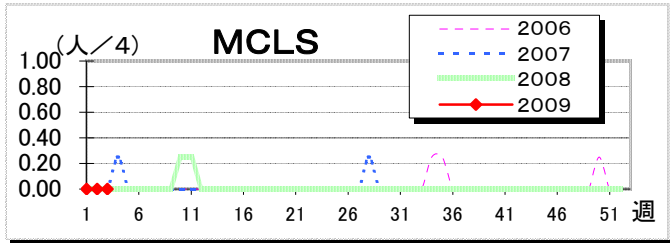
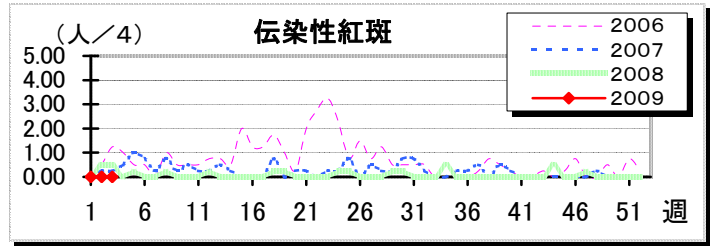
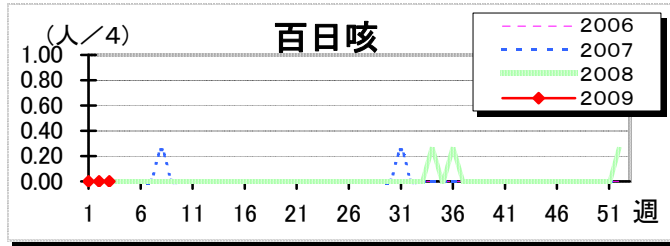
2009年3週(平成21年1月12日～平成21年1月18日)

東京都北区保健所 保健予防課 結核感染症係 電話 (3919)3101

1 北区感染症サーベイランス (4年間の北区一定点医療機関あたり報告人数)



- 疑似症サーベイランスが2008年7月より開始しました。
症例のある場合には、コメントにて報告します。
- 「麻しん」、「風しん」は2008年1月から全数把握対象疾患【5類感染症】になりました。



疾病別の<北区>定点医療機関数

疾病	医療機関数	疾病	医療機関数	疾病	医療機関数
インフルエンザ	8	手足口病	4	急性出血性結膜炎	1
不明発しん症	4	伝染性紅斑		流行性角結膜炎	1
MCLS		突発性発しん			
咽頭結膜熱		百日咳			
A群溶血性レンサ球菌		ヘルパンギーナ			
感染性胃腸炎		流行性耳下腺炎			
水痘		RSウイルス感染症			

※ 最近3週間の北区一定点医療機関あたり報告人数 (区内定点からの全報告人数/北区定点医療機関数)

	不明発しん症	MCLS	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1週	0.00	0.00	1.25	0.25	0.50	3.50	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2週	0.00	0.00	7.63	0.00	0.25	4.75	5.50	0.25	0.00	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
3週	0.00	0.00	14.63	0.00	0.75	5.25	2.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

2 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出数

	49週	50週	51週	52週	2008年累計	1週	2週	3週	2009年累計
麻しん	0	0	0	0	24	0	0	0	0
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律から、最近の感染症発生動向を送付いたします。東京都および、厚生労働省による集計分については下記のインターネットのホームページをご覧ください。

- 東京都感染症情報センターのホームページアドレス
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html>
- 厚生労働省/国立感染症研究所感染症情報センターのホームページアドレス
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

今週のコメント (第3週)

- 各地でインフルエンザの流行がみられています。
区内での報告数も増加してきており、既に学級閉鎖等の対応をしている学校もあります。
予防にはくれぐれも気を配っていきましょう。
予防の基本は、流行前に予防接種を受ける他、人ごみではマスクをつけるようにし、
外出から帰宅後は、手洗い・うがいの励行をお願いいたします。
詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/service/008/000845.htm>

- 感染性胃腸炎の報告数も多くなっております。
管内でも、昨年末に保育園などでの集団感染が確認されております。
特に食事の前の手洗いの励行をお願いいたします。
施設などでは、特に食堂・水周り・ドアノブなど、複数の利用者が共有するスペース・備品などの
消毒の徹底をお願いいたします。
調理従事者の方は、ご自身で嘔吐・下痢・発熱などの症状を感じた場合は、速やかに医療機関を受診
し、勤務に関してはご所属の担当者に速やかにご相談するようにしてください。
詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/micro/noro_manual.html

- ここ最近では減少傾向にはありますが、A群溶連菌咽頭炎も引き続き注意が必要です。
溶連菌に感染すると、咽頭炎などをおこすことがあります。
潜伏期はおおよそ2～5日です。おもに2～10歳頃に多く、成人には少ないといわれています。
季節的には、12～3月に一番多く、これからの時期は注意が必要です。
症状は咽頭炎・扁桃腺炎(発熱、のどが痛い、のどが赤い、扁桃腺に白いものがつく)のほか、
口蓋垂に、点状の出血斑が認められたり、舌の表面が、イチゴの表面のようになつたり、
全身に発疹が出たりします。これらの症状は、すべて出るわけではありません。
特に1～3歳ぐらいでは症状が少ないこともよくあります。

- そのほか、水痘(みずぼうそう)の報告も上がってきておりますので、からだに発疹が出現した場合は、
速やかに医療機関を受診して診断を受けるようにしてください。

- 麻しんの定期予防接種の対象者で、未接種の方は、できるだけ早くワクチン接種を受けましょう。
麻しん風しん混合ワクチンは平成17年度から2回接種になりました。第1期(1歳児)と第2期(5～7歳
未満で小学校に就学する前の1年間)の2回の接種を受けましょう。
また、2歳から18歳の年齢の方で、麻しんに今までかかっていなかった人でワクチンも接種していない方、
小学校1年生・2年生で第2期を未接種のままの方は、任意でワクチンの接種を受けることができます。
さらに、中学1年生・高校3年生に相当する年齢の方も対象として麻しん、風しん予防接種を実施して
おります。その際、費用に関しては公費で負担いたします。
詳しくは、下記の関連リンク先ホームページの麻しんに関する部分をご覧ください。
<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/service/167/016751.htm>

- 東京都全域の百日咳の定点当りの報告数は、一時期に比べ減少してきましたが、過去5年の同時期の
報告数と比較して多く、引き続き注意が必要です。
区内の定点からの発生報告はありませんが、今年の特徴が成人の感染が際立っていることから、
内科定点の医療機関にもご協力をいたたき、情報の収集に努めていますので、今後も引き続き週報で報告
していきたいと考えております。
百日咳は、乳幼児が感染した場合は重症化することが多く、ときには死にいたることがあるので、ワクチンは
確実にお受けください。成人においては、乳幼児に感染させることのないよう、咳エチケットを守るとともに、
咳が長びくと感じたら百日咳を念頭に早めに医療機関を受診してください。
詳しくは、東京都感染症情報センターのホームページをご覧ください。
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/pertussis/index.html>

(参考) 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出状況【グラフ】

